

## 石井 鈴 展 —はじまり—

【会期】 2014年1月15日(水)～1月31日(金)  
午前11時～午後6時まで(最終日は午後5時閉廊)  
日曜・祝祭日 休廊  
【会場】 新生堂 1階/地下ギャラリー  
港区南青山5-4-30  
☎ 03(3498)8383 (代表)



いしい・すず

1981年大阪府生まれ。2005年京都造形芸術大学卒業。  
09年京都造形芸術大学松陰芸術賞受賞・作品賞上げ。09年  
10月～10年3月まで毎日新聞夕刊にコラム連載。11年国際  
ピース・アートコンクール&美術展優秀賞。

作品購入の目安/号=4万円



「BLUE JADE」 80×20cm

## 神秘への鍵穴がのぞく絵

絵を真剣に志す以前は柔道をしてきたという石井鈴だが、日本画に目覚める大きなきっかけとなったのは、京都国立博物館で見た「伊藤若冲展」だった。鮮やかな色彩と力強いフォルムが導き出す生命の造形に、強く惹かれたのだという。以前は猿の連作を描いていた彼女だが、今回は植物にモチーフを絞り込む。

「光を得るため上を向き、水を得るために根を下ろす。のみこんで、のびて、あふれて、かれてゆく。そしてまた、終わりのないエネルギーの循環がはじまる。そんな植物の姿を、私は常に不思議に感じ畏敬の念を抱きます。私にとっての『内なる世界』のモチーフとして猿を描いていますが、今回は私にとっての『外なる世界』として植物を描きました。『外なる世界』、『内なる世界』双方を今後追及して行こうと思います。」

以前、石井の師匠である千住博が、彼女の作品にこんなコメント

を寄せている。

「石井さんは自分を取り巻く不思議を追っている。植物は動物のようであり、動物は人のようである。そのスライドされたすき間には絵でしか表わせない神秘への鍵穴がのぞいている。作品はダイナミックで、かつ緻密。十分に描き込まれた世界は力強く、この世のはじまりを語る神話のようでもある

り、寓話的でもある。それは見事にゴージャスで劇的である」  
今回の新作展は、画廊の全会場を舞台に大作を中心に構成する。地下会場では、高さ2メートルの連作を展示し、今回のテーマである植物を、密度のある画面で力強く描く。  
(編集部)



「はじまり」 115×115cm